



日本IBM
CDE総括エグゼクティブ 的場大輔氏

飛騨高山フューチャープロジェクト 地域お仕事発見隊

特別講演会

「ローカルにおける10年後の仕事の姿」
～デジタルと人間のお仕事の融合がどんな風になっていくのか～

2021年 6月7日

開場／17:30～ 開演／18:00～(20:00終了予定)

会場／飛騨・世界生活文化センター(企画展示室又は芸術堂)

参加費無料 (協賛企業・店舗・個人様)

※CDEとは 東京大学と日本IBM、先端デジタル技術と人文社会科学を融合をテーマとした革新的な社会モデルを、日本企業と共にデザインする新たな研究プログラム。

講演の目的 (的場氏からのコメント)

コロナ禍の閉塞した社会活動、経済の低迷で先が見えない中、地方都市である飛騨高山の市民、事業者は疲弊している。一方で都市部の有利な立場にある企業や地域が進化するデジタル技術を巧妙にとらえて、経済と富を独占し、国際的な観光都市である飛騨高山であっても、地域間格差が拡がるという恐怖感が拭えない。デジタル技術の今後10年の進化によって、技術、経済、社会がどのように変わるかを理解した上で、ネットワークの発達によって、都市から的地方への富の分散が生まれているという仮説を現実にできる成功要因とは何かを説いていきたいと思います。具体的な行動様式として、飛騨高山の市民、事業者的好ましい行動様式を発見していくキッカケとして頂けたら幸いです。

講演内容

- ① 2030年のテクノロジーと社会の予測
- ② 2030年の産業予測
- ③ 2030年の働き方予測
- ④ 1998年に生まれた地方分散のパラドックス
- ⑤ コロナ禍で生まれる新常態でのローカルの姿(経済・技術・社会)
- ⑥ 新常態での都市はバーバスがドライブする
- ⑦ 優しくて、楽しい新しい街をつくるための行動様式

的場 大輔 (まとば だいすけ)

日本IBM・コグニティブ・デザイン・エクセレンス(CDE)統括エグゼクティブ／デジタル・ブレイン・イネーブルメント合同会社(dbe LLC)代表社員／情報処理推進機構デジタルアーキテクチャー・デザインセンター研究員／東京大学大学院学際情報学府・博士課程

2017年、東京大学大学院学際情報学府・修士修了

1988年来、IBM、オラクル、アクセンチュア、SAPなどの外資系IT企業で公共のセクターのパートナー、バイスプレジデントなどを歴任。2015年、自らコンサルティングファーム dbe LLCを起業し、デジタル系戦略コンサルタントとして活躍。2015年より東京大学にて行動科学を研究しながら、アートシンキングをベースにした新しいビジネス創出を手がける。2020年12月より国家のデータ戦略策定に参画している。

著書「SNSビジネス・ガイド」(インプレス)
「生き残る企業のIT戦略」(日経BP)
東京理科大学オープンカレッジ講師

飛騨高山フューチャープロジェクトの動画を是非ご覧になってください。↓

主催

飛騨高山フューチャープロジェクト

(POLA AQUALIE・NPO法人飛騨高山わらべうたの会・有限会社プレス・POLA本社)

後援

高山市商工会議所・高山市・高山市教育委員会

協力

CDE事務局

連絡先 0577-32-0453 (担当／宮本) POLA AQUALIE(ポーラ アクアリー) 高山市神田町2-74



ご来場の方へ

講演会は、新型コロナウイルス感染予防対策のため、自治体のガイドラインに沿った定員数と座席配置により、最大(企画展示室120名・芸術堂250名)までの入場者数とさせていただきます。ご来場の際、検温と指定の用紙に氏名・住所・電話番号をご記入後に、マスク着用にてご入場いただきます。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。
※コロナウイルス感染状況によって中止、又はオンラインでの開催となる場合もございます。ご了承ください。